

技術・家庭科（家庭分野）の主張

1 教科で育みたい人間像

技術・家庭科（家庭分野）では「生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択する人」を育みたいと考えている。「豊かな意思」とは、昔から伝わる生活の知恵を積極的に活用したり、世の中にあふれる生活に関する情報を収集したり、思いや考えのことである。このような意思で、現状に合わせながら生活を選択していく人、つまり、生活する主体者として、現在の自分の生活と照らし合わせながら、常にその時の最善を選択できる人であると考えている。

私たちにとって、食べる、着る、住む、買うという行動は習慣であり、生活を形成しているものであると言える。私たちは、習慣となっていることを意識せずに行うことがある。人によって家庭環境はもちろんのこと、生活経験も生活の中の優先順位や求めているものが異なる。自分の生活環境や置かれた立場が変化したり、生活経験を積み重ねたりしていくことによって、これまで何気なく行ってきたことにも目を向けることができるようになる。そこから、「もっとこうしていきたい」、「もう少しよりよくできるのではないか」「改善の必要がある」など、生活に対する思いや課題意識が生まれ、価値観が変わってくることもあるだろう。生活は常に変わっていくものであり、自分の意思で豊かな意思を選択していくことに終わりはないと言える。変化の激しい社会の中でも、生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択できる人であってほしいと願っている。

2 教科で願う子どもの学び

技術・家庭科（家庭分野）で願う子どもの学びは、「普段の生活と多様な価値観を照らし合わせながら自分の生活に合った意思決定をすること」である。意思決定とは、習慣となっていることを自分事として、現在や未来の自分の心構えや行動について考えることである。生活の中の一場面に置かれた自分の状況を想定して意思決定することは、豊かな意思に基づいて生活することにつながると考えている。

子どもが意思決定をするまでの過程では、まず自分の生活を見直すことを大切にしている。自分にとって当たり前のことが他者にとっては当たり前とは限らない。現状でそれほど不自由を感じることなく、課題だと思うことなく過ごしていることもある。そこで自分の当たり前を見直すことで新たな気づきや疑問をもつようになる。それらを共有することで、自分の知らなかった価値観を知り、見えなかった部分に気づかされ、より詳しく知りたいと考える。例えば、短時間でできる栄養バランスの良いメニューはどういったものがあるか、食品の保存は、どんな物も冷蔵庫や冷凍庫にしまえば大丈夫だと思っていたが、食材に合わせた保存の仕方があることなど、生活の中での当たり前から自分の生活に合った選択をする姿もあるだろう。このように、健康や環境について、この先の未来に与える影響、人とのかかわりなどの視点から生活を選択することにより、生活に対する視野を広げられ、自分の生活で大切にすべきところを考える点が見えてくるだろう。さらに、実践的・体験的な活動を通して解決策を検証し、効果の実感や想定していなかった問題点に直面することもあると同時に、「前よりは少し良くなった」「他にも自分ができることができそうだ」という思いをもつことができるだろう。こういった過程を繰り返すことによって、生活に対する思いや課題意識をもち、新たな課題を解決しようとしていく姿につながると考える。

複数の題材の配列も考えながら、授業づくりをする中で、私たちの生活は、多くの人や多くのものが関わり合って成り立っており、子どもたちがそれぞれのつながりを意識して考えていく姿を目指していきたい。

「現在の生活と照らし合わせながら自分の生活に合った意思決定をすること」を繰り返していくことによって、子どもたちは「生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択する人」になっていくだろう。このようにして、私たちは、家庭科の授業だからこそ育むことのできる子どもの学びの実現を目指したいと考えている。